

**虎ノ門ヒルズの大規模歩道橋「T-デッキ」
土木学会賞〈田中賞作品部門〉を受賞
～高い意匠性を有し、高難易度な建築物と橋梁の構造的調和を実現～**

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長:辻慎吾)が管理・運営する「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」の大規模歩道橋「T-デッキ」が、この度、2025年度土木学会賞〈田中賞作品部門〉を受賞いたしました。なお、当社における土木学会賞の受賞は、虎ノ門地下通路建設工事(2018年度「技術賞」)、虎ノ門ヒルズ ステーションタワー(2023年度「技術賞」)に続いて3度目となります。

「土木学会賞」とは

「土木学会賞」(主催:公益財団法人 土木学会)は、「土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与する」ことを目的として設立された土木学会(1914年設立)が、学会創立後6年目にあたる1920年より継続している、100余年の歴史と伝統を誇る権威ある表彰制度です。功績賞、技術賞、環境賞等の10区分からなり、このうち〈田中賞〉は、橋梁およびそれに類する構造物の新設ならびに改築において、計画、設計、製作・施工、維持管理の配慮などの面において特色を有する作品を対象としています。

高い意匠性、安全性・維持管理性の両立、開放的な桁下空間の創出、高難易度な構造的調和を高く評価

「土木学会賞」〈田中賞作品部門〉を受賞した「T-デッキ」は、桜田通り上に架かる幅員約20m、橋長約35mの大規模歩道橋で、デッキ下には国道1号線、その下の地下には日比谷線虎ノ門ヒルズ駅が位置しています。本賞の受賞においては、「構造自体が高い意匠を持ち、道路上へのパネルの落下リスクやメンテナンスへの配慮といった安全性と維持管理性を両立した点」「明るく開放的な桁下空間の創出」「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー(高層建築)とガラスロック(低層建築)という振動特性の異なる建築物と橋梁において高難易度な構造的調和を実現した点」などが高く評価されました。



当社は、引き続き、「都市を創り、都市を育む」の理念のもと、国際都市・東京のさらなる磁力向上に貢献してまいります。

【本件に関するお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 伊藤、立島

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

■「土木学会賞」<田中賞作品部門>受賞理由

本橋は、桜田通り上に架かる幅員約 20m、橋長約 35m の歩道橋で、デッキ下には国道1号線、その下の地下には日比谷線虎ノ門ヒルズ駅が位置している。折板形状を構造として活かした単純箱桁橋で、ステーションタワー（高層建築）とグラスロック（低層建築）という振動特性の異なる建築躯体の上に橋脚が載るため、不静定次数を低くすることで地震時の建築躯体への依存を最小限にした設計を行っている。

建築物と橋梁では適用基準が違い、大地震時を想定した設計思想が異なるため、建築躯体にかかる反力を制御し、橋脚は塑性化を考慮する設計方針としている。

主桁形状は、建物側の天井デザインとデッキが連続するイメージと、折による幾何剛性の向上、単純梁曲げモーメント図などから決定している。メンテナンスへの配慮（主構造の目視点検、塗り替えのしやすさ）や道路上へのパネルの落下などのリスクを避けるため、構造自体を意匠とする方針としている。桁下空間は大きく確保でき光が差し込み明るく開放的である。高欄ガラスは直接主構造に支持され、ボルトや目地がないためメンテナンス上も有利である。

以上のように、限られた敷地条件の中で、事業性から要求される高い意匠性と明るく安心感のある空間を創出しつつ、建築物と橋梁の構造的調和を実現させた本橋は、今後の都市型橋梁建設に新たな指針を示すものとして、土木学会田中賞に値するものと認められた。



「T-デッキ」は桜田通り上に架かり、地下には日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」が位置



ステーションタワー（高層建築）とグラスロック（低層建築）という振動特性の異なる建築物と橋梁による構造的調和を実現



建物側の天井デザインとデッキが連続する主桁形状を採用
桁下には光が差し込み明るく開放的な空間を実現



高欄ガラスは直接主構造に支持されており、ボルトや目地がなく、メンテナンス上も有利